



賞状を手に繰糸機の前で笑顔を見せる林久美子さん

林さん(岡谷蚕糸博物館)日本シルク学会賞

技術と思い継承 活動評価

岡谷市郷田の岡谷蚕糸博物館「シルクファクトおみや」学芸員の林久美子さんが、日本シルク学会賞を受賞した。日本の近代化を支えた諏訪地域の蚕糸業に携わった人々を取材し、養蚕から製糸、染織に至る全ての技術と思いを受け継ぎ、人々に伝える活動が評価された。岡谷市関係者の受賞は2011年の高林千幸館長以来、5人目になる。(唐沢宏)

林さんは福岡県出身。熊本大学文学部史学科を卒業後、凸版印刷(東京)を経て、夫の出身地である岡谷市に移住。01年から同館の紀要編集に携わり、信州大学名誉教授で同館名誉館長だった嶋崎昭典さんの指導を受け、蚕糸技術の本質を追究してきた。蚕糸業に携わった人々から直接話を聞き、技術指導も受け、研究成果を博物館紀要や日本シルク学会誌などに報告。博物館での系取り実演の

系にするところに技術が生まれる。技術は人の手から手へとつないでいかなければ残らない。先人が培った蚕糸技術の本質を捉え、託された思いを胸にこれからの活動に生かしていきたい」と話した。

高林館長は「養蚕から最終製品に至る一連の技術に精通している人は彼女だけ。蚕糸業全般の経験とエビデンスを積み重ね、博物館活動に生かしてほしい」と期待した。

シルク学会は大学や研究機関、博物館の研究者、県職員、企業関係者ら約240人で組織。今年度の同賞受賞者は林さん一人で審査委員会(9人)が満場一致で決めた。林さんは19日、岡谷市で開いた第68回日本シルク学会研究発表会で受賞講演を行い、蚕糸

技術の継承と普及活動について語った。



発行所
〒394-0028 岡谷市本町3
岡谷市民新聞社
編集・発行人 藤 摩 建
電話 記事23・4449
広告22・8000
購読22・8001
事業22・8002
総務23・4441
FAX 記事22・4444
FAX 広告21・1515

インターネットページ
www.shimin.co.jp
E-mail(記事)
mail@shimin.co.jp
E-mail(広告)
koukoku@shimin.co.jp
©岡谷市民新聞社 2021年
定価1カ月1,980円
1部売り80円(税込み)

市民新聞の購読申
込みは本紙営業局
☎22・8001へ
本紙をお届けする販売店
浜 新聞 店 ☎22・2393
読売センター岡谷 ☎22・9680
産経新聞岡谷 ☎22・3881
中日新聞岡谷 ☎22・4129
毎日新聞岡谷店 ☎78・7870
唐沢新聞 店 ☎23・0896
□販地地区□
信濃ふれあい圏下諏訪 ☎27・7602
毎日新聞岡谷店 ☎78・7870
読売センター諏訪店 ☎27・3883
中日新聞専売所 ☎27・7166
コンビニもご利用ください

シルク産業発展へ成果共有

学会が 林学芸員(蚕糸) 受賞講演も



講演する林学芸員

日本シルク学会は、19、20両日、第68回研究発表会を岡谷市内で開いた。かつて製糸業で栄え、日本の近代化をけん引した岡谷での開催は2015年以來、各研究機関の発表の取り組み、成果を共有した。

初日はテクノブラザをおかやで行い、学会賞を受けた林学芸員は「わが国の蚕糸技術に關する研究ならびにその継承と普及活動」と題して受賞講演。自身の活動を紹介しながら蓄積された技術や知識、思いを継承する重要性、養蚕や製糸、染織といった独立した工程をつなぎ合わせ、全



介された。実行委員長で、岡谷蚕糸博物館の高林千幸館長は「この発表会は実用的な研究が多い。より現場に近く、役立つというのは非常に大事。若い人たちが取り組み、製糸産業に結び付けているのはうれしい」と話していた。

体を見据えた取り組みの必要性を語った。「理論のみならず、人の手と共に蚕糸技術の本質を伝えることが大事」と強調。終了後の取材に対し「私が一番幸せだったのは、実際に産業に携わった人と直接会えたこと。目の前で技術の「妙」を見せてもらったからこそ、研究発表は、各機関による「野蚕・クモ糸」製糸・織物・紡糸「蚕育種」「遺伝子組み換え」「桑・人工飼料」「シルク加工・構造」の6分野で計25本。染まりやすい「高染色性絹糸」を生産する蚕の

高林館長が 会長を退任
併せて開いた総会では、2013年度から9年間、学会の会長を務めた高林館長が退任し、新たに信州大学繊維学部の玉田靖教授が会長に就くことが決まった。

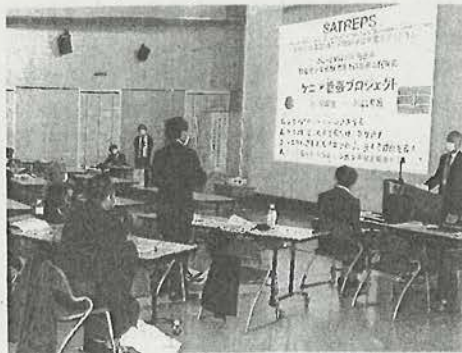
2021. 11. 20 (土)

岡谷で「日本シルク学会」研究発表会

養蚕や製糸 課題報告

シルクに関する科学技術の向上や産業発展を目的にした「日本シルク学会」の研究発表会が19日、岡谷市で2日間の日程で始まった。市内での学会開催は2015年以来。この日は市テクノプラザおかやを会場に、養蚕や野蚕、製糸、シルク加工など25の研究課題の報告があった。

群馬県蚕糸技術センターなどのグル



日本シルク学会の研究発表会

ープは、夏場の高温障害で繭品質などに影響が出ているとして、19年度に育成した蚕品種「なつこ」の実用化について紹介。発表者は「暑い時季の飼育では優れているが人工飼料の摂食性など改善の余地は多い。これからはスタート」とした。繭の繊維成分を溶液化してから再び繊維化する技術を、野蚕に応用したり強度を持たせたりする研究報告もあった。

総会も開催。養蚕や製糸技術などの継承・普及に取り組む林久美子・岡谷市立岡谷蚕糸博物館学芸員の活動が評価され、学会賞を受賞した。